



霞ヶ関カンツリー倶楽部 概要

事業所名 一般社団法人 霞ヶ関カンツリー倶楽部
所在地：〒350-1175 埼玉県川越市笠幡3398番地
TEL：049-231-2181（代表） FAX：049-231-4528
URL：<https://www.kasumigasekicc.or.jp>
開場日 1929年10月6日
アクセス 車：圏央道／圏央鶴ヶ島インターより約5km（約8分）
電車：西武新宿線／狭山市駅より倶楽部バスで約15分
JR川越線／笠幡駅より徒歩15分



ようこそ、霞へ。



Kasumigaseki Country Club

新たな歴史が

霞の歴史

笠幡の旧家の当主、發智庄平氏の願いと、藤田欽哉、赤星四郎両氏らの尽力が実を結び、1929年に東コースが竣工。西コースは会員の間から高まった第2コース建設の要望に応じて1932年に完成、霞は我が国で初めて36ホールズを持つゴルフ場となった。戦後、米軍によって接収されたが、農地化などで荒れ果てたコースは接収中も復旧へ向けた作業が行われ、1954年に36ホールズが再開。その3年後、東コースで開催されたカナダカップ（現ワールドカップ）は日本にゴルフブームをもたらした。

それから63年後の2020年、同じ東コースが東京オリンピックにおいてゴルフの競技会場として予定されており、霞に新たな歴史が刻まれる。



初代倶楽部ハウス（1929）



チャールズ・アリソン氏来訪（1930）
「赤星六郎（左）、藤田欽哉（右）と共に」



東10番（1936）



2代目倶楽部ハウス（1955）



第5回カナダカップ開催（1957）

開かれた倶楽部

霞は、ゴルフ発展のため若年層の育成をサポートする目的で、日本ジュニアゴルフ選手権競技に1971年から約50年にわたって会場を提供してきた。多くの日本のトッププレーヤーが競い合った霞の日本ジュニアは、日本中のジュニアゴルファーの目標となっている。

また、地元の自治体の教育委員会や体育協会などが主催する健康・体育・文化事業と連携してコースを開放し、ゴルフ人口の底辺拡大やレベル向上に協力しているほか、近隣の幼稚園や保育園の園児あるいは児童養護施設の方々に、霞の自然のなかで遊戯や散策を楽しめるよう、情操教育やレクリエーションの場として休業日に施設を開放している。



日本ジュニア選手権 写真左から：表彰式 練習風景



レクリエーション

、刻まれる。

東コース

トーナメントティー 7,466Y / Par 71

東コースは2016年10月にトム＆ローガン・ファジオ氏により改造されたダイナミックなコース。かつてのチャールズ・アリソン氏改造のクラシカルな印象を残しつつ、フェアウェイには適度なうねりが与えられ、傾斜のある大きなグリーンをガードする深く大きいバンカーが特徴であり、正確なアイアンショットが求められる。

左から：東10番／189Y／Par 3 東9番／521Y／Par 4 東1番／411Y／Par 4



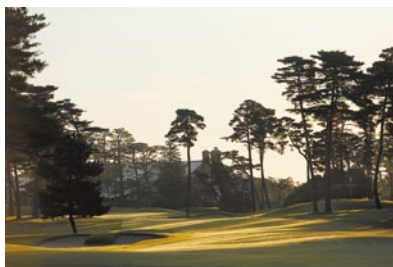
写真左から：東5番／640Y／Par 5 東16番／203Y／Par 3 東17番／343Y／Par 4

西コース

フルバックティー 7,117Y / Par 73

西コースは井上誠氏により設計され、川田太三氏が改造した優美なコースであるが、ティーショットからピンポイントで攻めることを余儀なくされるホールが多い。インに入ると、景観は一変して池やクリークを生かした優雅ともいえるたたずまい。だが、その優雅さは数々の罠をも秘めている。正確なショットが求められる、気の抜けないホールが続く。

西16番／144Y／Par 3



写真左から：西6番／557Y／Par 5 西12番／381Y／Par 4 西9番／414Y／Par 4